

令和3年度 自己評価および学校関係者評価書

令和4年3月25日  
函館市立桔梗小学校

1 本年度の重点教育目標

豊かな心で学び合う子

2 本年度の取組の重点

- ①学び合いの充実を図る，主体的・対話的で深い学びの授業の構築
- ②基礎・基本の確実な習得と活用を図り，思考力判断力・表現力といった学力の定着
- ③よりよい人間関係を醸成する教育活動の推進
- ④「いじめ」「不登校」等の未然防止や早期発見・早期対応
- ⑤学校における指導体制の充実
- ⑥情報の提供と保護者・地域との双方向による連携の強化
- ⑦各種学校との連携の充実

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
学び合いの充実を図る，主体的・対話的で深い学びの授業の構築	支持的風土を醸成する学年・学級経営の充実を図ることができたか。	a	学校の教育目標の達成にあたって重要な項目である。今後も支持的風土（互いに認め合い，尊重し合う雰囲気）の醸成を図るべく，学年・学級経営を進めていく。また，支持的風土に関する具体的な指導等の研修も取り入れていく。	A	A	
	「主体的・対話的で深い学び」の活動を取り入れた授業作りに取り組むことができたか。	b	昨年度の経験を踏まえ，コロナ禍における「主体的・対話的で深い学び」をめざし，授業作りに取り組んできた。今後も一人一台端末の活用など，実践していきけるような方法を模索していく必要がある。	A	A	今年度も国内に及ぼしたコロナ感染症のため，注意を払いながら授業作りをやってきた事が次年度に生かしていただきたい。（山崎氏） コロナ禍において，出来る限りの対応をされていると感じております。（林氏）
基礎・基本の確実な習得と活用を図り，思考力判断力・表現力といった学力の定着	ノート指導及び教師の発問と板書の工夫による，基礎・基本の確実な習得を図ることができたか。	a	ノート指導・発問等，学力向上推進部から出されている授業の基本の守りつつ進めていく。学校としての決めごとを常に意識していく。	A	A	授業の様子を見る機会がないので，評価が困難。（金澤氏）
	実物投影機などの ICT 機器を効果的に活用した授業作りに取り組むことができたか。	a	一人一台端末やデジタル教科書の導入を踏まえ，より ICT 機器を活用していくよう，情報教育推進部から提案をしていく。	A	A	今後必須の項目と考えられます。理解を深め，使いこなせるよう，自身も努力していきたい。児童だけでなく，家庭での利用の仕方も大切なのかなと考えています。（金澤氏）

よりよい人間関係を醸成する教育活動の推進	感謝の気持ちを持ち、よさを認め合える教育活動の推進を図ることができたか。	b	学校の教育目標の達成にあたって重要な項目である。保護者アンケートでも高い評価をいただいているので、引き続き、指導を進める。	A	A	先日歩道等の雪かきをしていると「ありがとうございます」と言ってくれる児童がおり、感謝の言葉が心にあるのが伝わってきました。（山崎氏）
	アンガーマネジメント（あだ名・呼び捨ても含む）を意識し、よい人間関係を醸成する指導を図ることができたか。	a	叱ることよりほめることを意識することを「桔梗スタンダード」などに明記し、職員が共通認識をもつことで、人権意識に基づいたよりよい人間関係の醸成に努めることができた。	A	A	「ほめる」ことについて、家庭との認識の共有も大事なのではないのでしょうか。（金澤氏）
「いじめ」「不登校」等の未然防止、早期発見・対応	定期的な教育相談の効果的な運用に取り組むことができたか。	a	いじめアンケートの実施とともに、普段から気になる児童への声掛けを行うことによって、いじめ等の未然防止を図ることができた。	A	A	協力体制を高めたいと思います。（佐藤氏） システムの活用は必要と考えます。どんどん活用すべき・・・と思いますが、支援する方の「手」も多いと思います。（金澤氏）
学校における指導体制の充実	校務支援システムの積極的活用により、児童に関わる時間を確保することができたか。	a	校務支援システムを活用することで、業務改善が進んできている。システムの運用方法を工夫することで、さらなる業務改善を進めていきたい。	A	A	コロナ拡大防止中にある活動で制限は仕方ないと思います。（佐藤氏） コロナ禍だけど出来ることに着目、視点を変えて考えてみることも必要かもしれない。（林氏） すみません。コーディネーターとして実質的な働きがありませんでした。次年度はぜひ活動を広げたいと考えています。よろしくお願いします。（金澤氏）
情報の提供と保護者・地域との双方向による連携の強化	コミュニティ・スクールによる「地域とともにある学校」への転換を図ることができたか。	b	コロナの影響で十ブナ取組が依然難しい状況だが、コーディネーターに地域と学校との橋渡し役になっていただき、「地域とともにある学校」作りを進めていきたい。	A	A	自身があまりインターネットを積極的に利用する方ではないので、今後はなるべく見に行こうと思います。（金澤氏）
	ホームページによる学校行事等の紹介と、電子アンケートの実施を進めることができたか。	a	ホームページ等で学校の取組を発信することができた。今後も情報提供の一つの方法として、積極的に活用していきたい。電子アンケートも継続して行い、業務の改善を図ることができた。今後は安心メールを活用した情報提供を進めていく。	A	A	私達地域との情報交換をしながらの活動が良いと思います。（山崎氏） コーディネーターとして、活動を広げるお手伝いができるよう、頑張りたいと思います。（金澤氏）

各種学校との連携の充実	高等学校，中学校，幼稚園・保育園との連携の充実と推進を図ることができたか。	b	地域・学校間の連携もコロナのため，活動は十分行えない状況ではあるが，学校運営協議会で異校種間の連携を図ることができた。今後もできる範囲での積極的な連携を図っていきたい。	A	A	
-------------	---------------------------------------	---	--	---	---	--

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり，取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが，若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが，若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。